

保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告 第2報

——「食育双六」制作・被災地送付を通して——

高 杉 志 緒

The Second Action-Training Report on *Shokuiku*

— On the Creation of “*Shokuiku Sugoroku*” Presented at the Department of Early Childhood Education and Care Seminar and Works Sent to Disaster Stricken Areas —

by
Shio Takasugi

要旨

本稿は、平成 23 (2011) 年度前期、保育学科ゼミナール授業活動 (総合学習) に関する教育実践報告である。平成 17 (2005) 年「食育基本法」が制定されて以降、保育の現場でも「食育」の導入が本格的に行われていることに鑑み、平成 21 (2009) 年度から報告者は「食育表現ゼミナール」を担当。学生を主体としてカルタや紙芝居を制作・発表してきた。平成 23 年度前期は「食育双六」制作・展示発表および被災地への作品送付を行った。本活動を通じて〈領域「言葉」を土台に「食育」に関する保育学生の資質の向上〉を図ると同時に、「遠隔地でも行うことのできる被災地支援活動」について考察した。今後、「遠隔地における被災地支援」を視野に入れた地域交流・実践活動ができるゼミナール活動の展開を目標としたい。

キーワード：食育基本法、絵双六、下関ぶちうま食育プラン、宮古市、被災地支援、領域「言葉」

Summary

This paper is an educational action-training report on the teaching activities (integrated studies) of the *Department of Early Childhood Education and Care Seminar* conducted during the first half of fiscal year 2011. Ever since the enactment of the Japanese “**Basic Law of Shokuiku**” in 2005, there has been a serious effort in the introduction of “*Shokuiku*” or food and nutrition education even in

the field of operation of Early Child Education and Care. The author of this report, since fiscal year 2009, has been in charge of the “*Shokuiku Expression Seminar*”, where mostly students created and made presentations of *Karuta* (Japanese playing cards) and *Kamishibai* (Japanese picture-story shows). In the first half of fiscal 2011, “*Shokuiku Sugoroku*” (Sugoroku, being a Japanese variety of Parcheesie) were made and their exhibits presented. Such works were also sent to disaster stricken areas of the Great Earthquake and Tsunami Disaster of 2011. At the same time as examining efforts into improving the nature of Early Childhood Education and Care students in “*Shokuiku*” placing groundwork on “language”, studies were also made in the “providing of assistance to disaster stricken regions in even distant and remote areas”. For the future, I would like to set my goals on holding further seminar activities capable of placing regional interchange action training into place, which also would explore the idea of “assistance to disaster stricken regions of remote and distance areas.”

Key words : Basic Law of “Shokuiku”, Picture Sugoroku, Shimonoseki “Buchiuma” Shokuiku Plan, The City of Miyako, disaster stricken areas, areas struck by the Great Earthquake and Tsunami of 2011, “Language” within the field of Early Childhood Education and Care

1 はじめに —「食育表現ゼミナール」活動と本稿の目的—

平成 17 (2005) 年 6 月「食育基本法」(法律第 63 号) の制定を踏まえ、平成 21 (2009) 年 4 月施行「保育所保育指針」第 5 章「健康及び安全」における「3 食育の推進」の新設、「幼稚園教育要領」第 2 章「健康」における「食育」の位置づけが行われ、保育現場でも食育推進が課題となっている。

このような「食育」重視の動向を踏まえ、本学保育学科において平成 21 年度「『食育』に関する『言語表現』活動実践を通じた保育学科学生の資質向上」という目標のもと、選択希望学生を主体とした「食育表現ゼミナール」が開講された(担当教員は報告者)。「食育」に関する専門知識・指導については、適宜、本学の栄養健康学科教員に指導を受け、活動を行っている。過去 2 年間の活動概要は、平成 21 年度「山口食育カルタ」制作・実践¹⁾、平成 22 年度大型紙芝居「あすかちゃんとトマト」制作・発表である。

本稿では以下、平成 23 (2011) 年度前期活動である「食育双六」制作と第 3 回「作品展と

工作体験」での展示発表、ならびに被災地への作品送付について活動報告を行う。

2 実践報告

保育学科ゼミナール（以下「ゼミ」と略記）は、学生が所属ゼミを選ぶ希望選択制であり、学生を主体とした授業活動である。各年度4月上旬に全体説明会を行い、学生から所属希望調査を行った後、平成23年度は4月13日から活動を開始した。平成23年度、報告者のゼミに年間を通じて参加したのは1年生4名、2年生6名であり、2年生の学外実習期間以外は全て1・2年生合同授業を行った。以下、23年度前期活動の概要を記す。

2・1 授業目標・実施概要

先述した授業目標（「食育」に関する「言語表現」活動実践を通じた保育学科学生の資質向上）に基づき、平成21年度と同様の授業内容、すなわち1. 言語表現媒体・教材と「食育」についての学習、2. 実践的な言語表現能力の向上・実践、以上2点を主眼とした。また、平成23年度前期に学習・制作とする言語表現媒体・教材は、第1回授業時に学生から希望があった「絵双六」と決定した。全15回の前期授業実施内容は以下の通りである。

- 1) 4月7日 各ゼミナール全体説明会（学外研修時、オリエンテーション）
- 2) 4月13日 領域「言葉」と「食育」について（概説及び、前期活動「絵双六」制作の決定）
- 3) 4月20日 「しものせき食育すごろく」について、今後の活動について
- 4) 4月27日 双六の歴史と実践（バックギャモンと双六、江戸期の絵双六について等）
- 5) 5月11日 「食育」と現状把握・問題点の検討（新聞記事の検討）、双六制作1：主題考案
- 6) 5月18日 「食育基本法」と下関の食について、双六制作2：班分け
- 7) 5月25日 双六制作3：班別活動（班別主題・ストーリー案作成）
- 8) 6月1日 双六制作4：班別活動（ストーリー決定、コマ内文面作成）
- 9) 6月22日 双六制作5：班別活動（コマ内文案決定・レイアウト作成）
- 10) 6月29日 双六制作6：班別活動（コマ内文案推敲・画用紙に本案下書）
- 11) 7月6日 双六制作7：班別活動（画用紙に本案制作）
- 12) 7月13日 双六制作7：班別活動（画用紙に本案制作・仕上げ）
- 13・14) 7月18日（出席2回分）第3回 作品展と工作体験「みて、つくって、楽しんで」
- 15) 7月20日 反省会・双六改善（レポート提出）

以上前期15回の授業（学外活動を含む）を行った。次に、より具体的に双六制作を報告する。

2・2 教育実践 —「食育双六」制作過程—

先に述べたように、4月13日、今年度における本ゼミの具体的な活動内容について、学生から希望を募ったところ、双六制作（4名）、大型紙芝居の作成・上演（2名）、劇（2名）、その他（2名）という結果となった。そこで、前期「絵双六」を制作して7月の「作品展と工作体験」で展示発表を行い、後期「大型紙芝居劇」を制作して12月の創作発表会で発表することに決定した。

学生は、下関市が発行した『下関ぶちうま食育プラン』の巻末に幼児向けの「しものせきしょくいくすごろく」が添付されていることを知らなかった²⁾。そこで報告者が紹介し、「食育」について説明を行った後、実践した。実際に「下関食育双六」を行うことを通じて、盤面に記された「家族みんなで触れ合おう」「生命を頂くことに感謝しよう！」「食文化を知ろう！」「食生活を見直そう！」「安全な食べ物を食べよう！ 身近なところで作られた食べ物を食べよう！」といった「食育」の観点について学ぶことができた。また、「昨日食べ物を残した人は1つ戻る」といった所謂「罰ゲーム」の要素があった方が食生活についてより深く考えることができ、遊戯的に楽しめることに気付くことができた。

このように既成の双六実践を踏まえて5月11日以降、絵双六の主題・内容・対象年齢等の具体的な検討を行った。その結果、「ダイエットを主題とした双六」「幼稚園生活を主題とした双六」「食育・冒険双六」という3つの主題に絞り、3班に分かれて制作することとなった。

制作を行うにあたって5月11日、報告者は留意点として以下の項目を挙げた。1) 既存のキャラクターを使わない（著作権に留意する）、2) 地元（山口県）の食材等を調べて事実に基づく設定を行う、3) 遊戯者何人用の双六かを考えてコマや付属品を作る、4) 『下関ぶちうま食育プラン』に基づいたコマを1人2コマ以上考える、以上4点である。3) については、対象年齢は5～6歳児、4～5人で遊ぶことを前提として決定し、留意点に沿って各班で制作にあたった。

また、5月中に下関短期大学が主体となって、河野学園から宮古市内保育施設へ作品送付を行うことが決定したことや、7月開催の「作品展と工作体験」では、被災地送付のための壁面構成制作を行うことをゼミ学生に報告した³⁾。この学園内での取り組みを受けて「遠隔地でも行える被災支援の実践」として本ゼミナールでは、「天候に関係なく、室内でも楽しめる絵双六を保育施設にプレゼントすること」を決定した。

制作の概略は以下の通りである。1) 双六のテーマに沿った「振り出し」「上がり」の決定、2) 全体の構成案（ストーリー）作成、3) 各コマの文案作成、4) コマ割り等の下書き、5) 画用紙に本制作（絵や文の書き込み・色紙貼付等）、6) 実践・改善、以上6つの手順で制作した。

3 平成 23 年度前期制作「食育双六」紹介

平成 23 年度前期、「食育表現ゼミナール」で制作した 3 作品について以下、学生が提出した「制作に関する感想・反省」を元に①双六の主題、②工夫点、③食育について、という 3 点から紹介を行う。

3・1 「園児になってすごろく」（制作：1 年静間亮太、2 年村上祐樹）

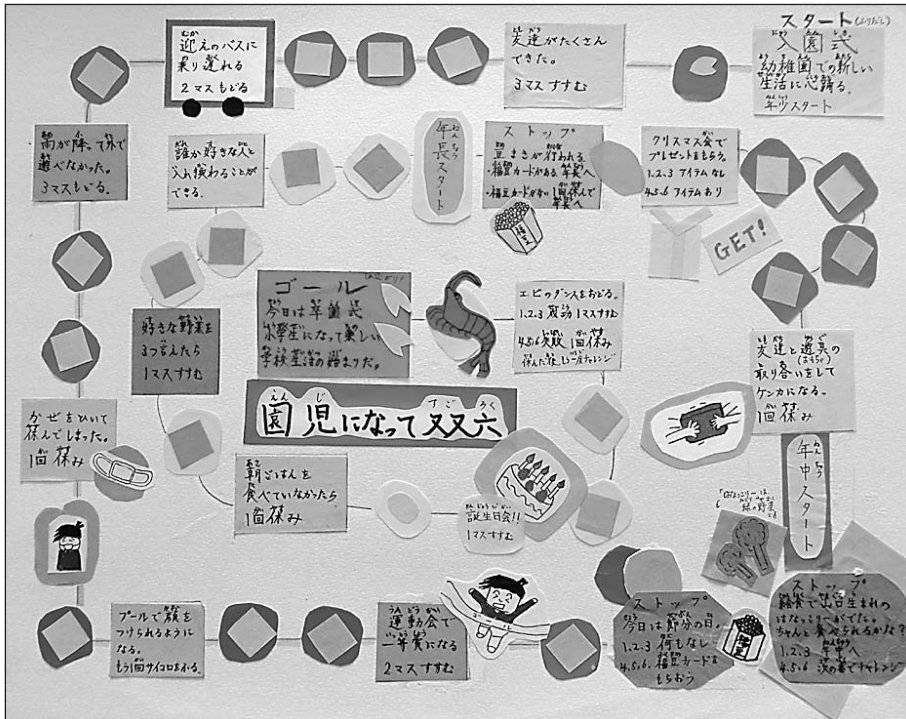


写真1 「園児になってすごろく」

- ①双六の主題：幼稚園児になったつもりで楽しむ絵双六。振り出しは「入園式」、上がりは「卒園式」。3 年保育の途中、「迎えのバスに乗りおくれた」「誕生会」といったコマで日常の出来事や行事を体験して「園生活」や「食」について触れる。
- ②工夫点：幼稚園行事を知るため、実際の下関短期大学付属第一幼稚園・下関短期大学付属第二幼稚園で毎月発行されている「園だより」を参考にした。どの季節にどのような行事があるのか、調べて取り入れた（豆まき、運動会、クリスマス会など）。また、コマには色紙を貼り付けて、カラフルにした。
- ③食育について：「山口県生まれの『はなっこりー』が食べられるかな？」という地産池消を促すコマや「好きな野菜を 3 ついえたら 1 マス進む」「朝ごはんを食べていなかったら 1 回休み」といった遊戯者自身の食生活を振り返るコマを作り、楽しみながら「食」につ

いて身近に感じられるように工夫した。

3・2 「恋物語ダイエットすごろく」(制作：1年久原春香・宮内牧穂、2年橋本美穂)

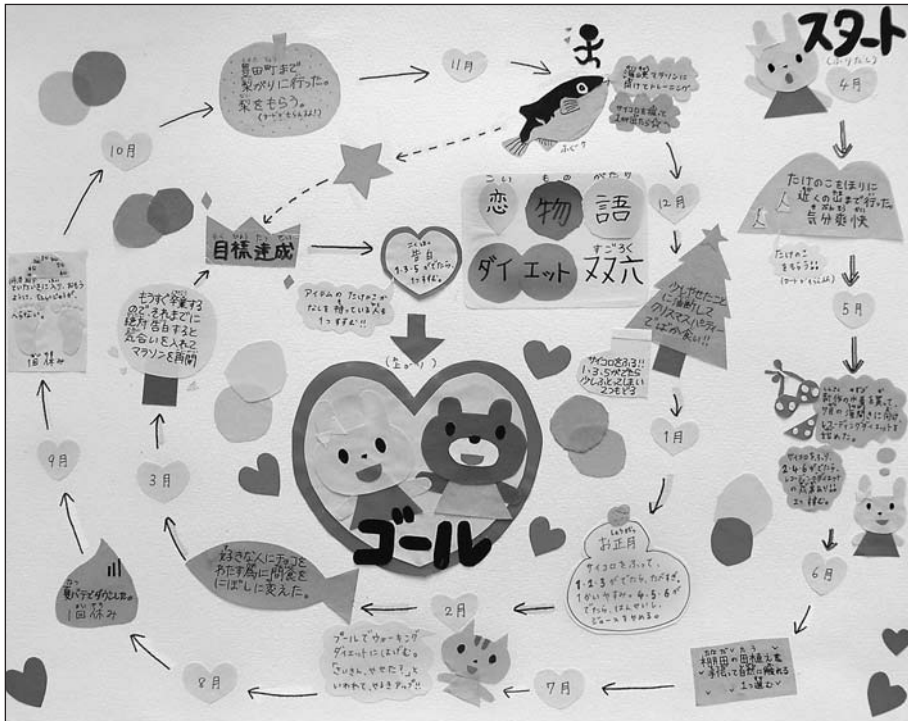


写真2 「恋物語ダイエットすごろく」

- ①双六の主題：恋愛とダイエットという乙女の関心事の2つが同時に楽しめる絵双六。「振り出し」は4月。主人公のウサギちゃんが一緒のクラスになったクマ君に一目惚れしたため、ダイエットを始めたという設定。一年間、様々な行事を体験しながらダイエットを行い、3月、目標体重を達成。告白して「上がり」で恋愛が成就する。班の中では、「恋」「ダイエット」という主題が、5歳児に相応しいか、理解できるのか、疑問の声も上がったが、「初恋は幼稚園の時だった」という声も上がったため、この主題を採用することに決定した。
- ②工夫点：当初「振り出しは100kg」という案もあったが、ダイエットに関する書籍を調べ「急激な体重の変化は体に負担をかける」ことを学習した。そこで、ダイエット期間を1年間とした。また、文案作成の途中で、各々が目標とする「理想の体重」と「標準体重」(BMI=22)がかなり違っていることが分かった。そこで「〇kg痩せた」「×kg肥った」といった具体的な数値の表記はやめて「たべすぎ」「少しやせた」「目標達成」という抽象的な表現を導入した。また、食事制限よりも「プールでウォーキング」「(下関)海峽マラ

ソーンにむけてトレーニング」といった体を動かすことを促進するコマを作成した。

- ③食育について：4月「たけのこ掘り」、6月「棚田で田植え」、10月「豊田町の梨狩り」といった季節にあわせた食に関する行事のコマを取り入れた。

3・3 「食育 for スゴロキアン」

(制作：1年尾関美香、2年上野仁美・小柳絢・倉重真未佳・安田奈緒子)

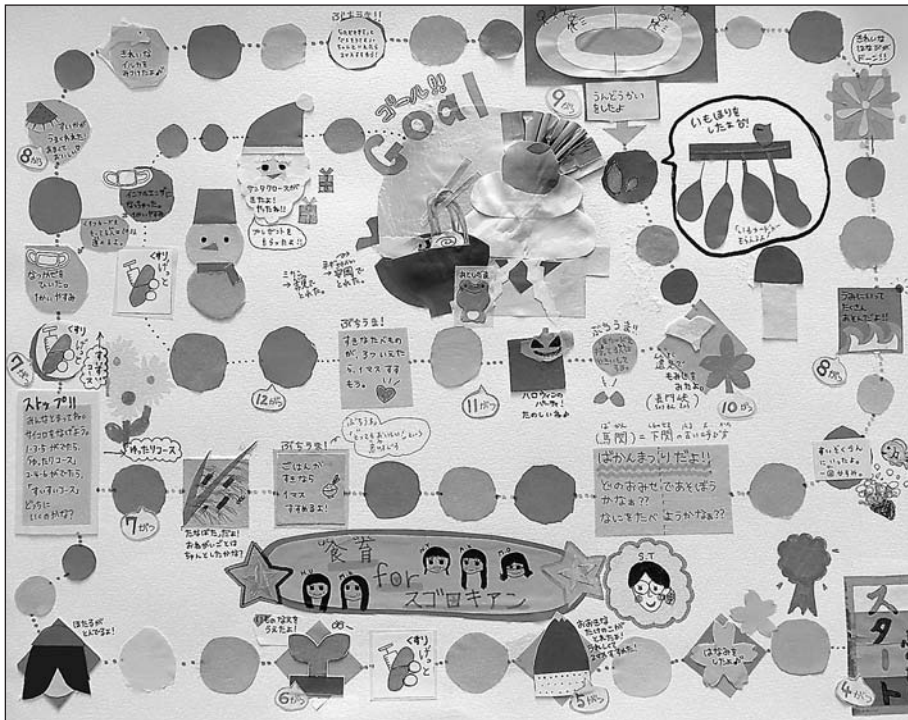


写真3 「食育 for スゴロキアン」

- ①双六の主題：4月から正月までの四季の風物・行事を楽しみながら「食」について学べる双六。「振り出し」は4月、「上がり」は正月のごちそう。題名は、「スゴロキアン（双六大好き人間）」という言葉が文献から学んだことに因む⁴⁾。
- ②工夫点：コマを四季に応じて色分けをした（春：ピンク・黄緑、夏：青・水色、秋：オレンジ・茶色、冬：赤・緑）。7月から夏休みに入ることを考慮して7月に入る手前で分岐点のコマを作成。出た目に応じて「すいすいコース」（9月まで11コマ）、「ゆったりコース」（9月まで16コマ）という2コースのいずれかに進むように設定し、異なった出来事・行事が楽しめるように工夫した。また、8月「馬関祭」、10月「長門峡でもみじをみる」といった、地元の行事や観光名所をコマに取り入れた。
- ③食育について：6月「いもの苗植え」を行い、9月に「いもほり」というコマを作って連

動させた。「ごはん（米食）が好きなら1マスすすむ」「いただきますとごちそうさまがちゃんといえたら2マス進む」といった食習慣に関するコマも作成した。

4 第3回「作品展と工作体験」における展示発表（平成23年7月16日～19日）

絵双六は、数人が参加して行う「盤上遊戯」として知られる。「振り出し」から始まり、サイコロを振ってその目の数だけ進んで「上がり」を目指す。しかし、その形態では大勢に対して発表できないため、絵双六の盤を拡大コピーして色模造紙に貼り付けて展示する「ポスター展示発表」という形態で「第3回作品展と工作体験」（於：シーモール下関）にて発表を行った。当初計画では、ポスター展示と共に7月18日、ワークショップにおいて展示した3種の「食育双六」が来場者と共に行えるよう用意した。しかし、双六を制作した学生が被災地への壁面構成作品の制作援助を行ったため、事実上、十分なワークショップが行えなかったことが反省点である。

展示前に実践して改善点を見つける作業を行う時間が取れなかったため、ワークショップ開始前に完成した双六を学生同士で実践する時間や展示した双六をみる時間を設けた。展示物として双六を客観的に観察し、制作に携わらなかった同級生と共に実践することによって、被災地に作品を送付する前に改善点を見つけることが目的であった。これらの気づきを会場でメモしておき、7月20日の反省会で披露・改善作業を行うこととした。



写真4 完成した展示用ポスターを持つ制作担当学生（向かって左から「園児になってすごろく」「恋物語ダイエットすごろく」「食育 for スゴロキアン」）

5 被災地への作品送付と御礼状について

作品展終了後の7月20日、反省会と双六の改善作業を行った。具体的な改善点としては以

下3点が挙げられた。1) アイテムを増やす(例『恋物語ダイエット双六』:「豊田町に梨がりに行った」→「梨をもらう」という文言を付加して「なしカード」をアイテムとして作成)、2) 下関市民以外の人々にも分かるように説明をつける(例『食育 for スゴロキアン』:「ばかまつりだよ」→「馬関=下関の古い呼び方」という説明を付加)、3) 「振り出し」と「上がり」の文字やコマを他のコマより大きくしてゲームの始まりと終わりをはっきりさせる、以上である。この3点を中心にそれぞれの班が改善を行い、被災地の保育所へ送付する作品を完成させた。同時に、各班で子ども達へのメッセージを制作してもらい、それぞれの双六の裏に貼り付けて送付することとした(写真5参照)。



写真5 「こどもたちへ」(送付双六の裏に貼り付けたメッセージ、向かって左から「園児になってすごろく」「恋物語ダイエットすごろく」「食育 for スゴロキアン」)

報告者は、完成した3種の絵双六(メッセージ貼付、各々1枚ずつ「アイテム台紙」添付)に対してカラーコピー・ラミネート加工を施すことによって、送付用3組を作成。7月28日、岩手県宮古市小山田保育所に他の作品と一緒に送付手続きを行った。その後、夏期休業中、8月31日付で宮古市内保育所(「小山田保育所」「田老保育所」「津軽石保育所」)よりカラー印刷された御礼状が本学に到着した³⁾。9月28日、後期授業の第1回目において、3カ所の保育所が作成した御礼状を学生に紹介した。御礼状に対する学生の感想の主な感想・気付きは以下の通りである。

- ・ (被災地では「運動会」など行事を含めて) 私達が当たり前だと思っていたことが当たり前に来ない状況にあるが、保育者も子ども達も一生懸命に頑張っておられることが伝わった。
- ・ (地震から半年過ぎても) 被災地の人々が大変な状況におられることを、自分は忘れがちだということに気付いた。
- ・ 自分達が作ったものを実際に遊んでもらえて嬉しい。子ども達の笑顔が見られて嬉しい。

- ・ 感謝の気持ちを伝えることは大切なことだと感じた。感謝の気持ちを伝えてくれたことに対して感謝をしたい。
- ・ 今後も作品送付を通じて、子ども達に笑顔を与えられるようになりたい。

学生は、作品送付と保育所の御礼状を通じて、被災地の保育環境の現状を垣間見ることが出来、ボランティア活動の意義、即ち「〈喜んでもらえること〉によって生じる自分の喜び」「相手に気持ちを込めた表現を行うことの大切さ」を学んだことが把握できた。同時にこの御礼状を囲んだ授業は「遠隔地における被災地支援」は何ができるのか、今後考えるきっかけづくりとなった。

但し、送付先で「食育双六」で遊んだ子ども達もどの程度、コマに記してある内容に対して理解を示し、実際に楽しんで頂けたのか、把握することは困難な状況にあることは問題視しなければならないであろう。送付先の子ども達に一層、理解を深めて頂けるよう、発送前に予め幼児達に「食育双六」を実践して貰い、改善の機会を設けるべきであったことを反省点として挙げたい。

6 おわりに — 感想・反省と今後の活動 —

「食育」「地産地消」等の社会的動向に対し、今回「食育双六」の作成・発表を通じ、ゼミ授業の目標〈領域「言葉」を土台に「食育」に関する保育学生の資質の向上〉は、概ね達成できたと考えられよう。学生は、「食育双六」を制作する過程において「食」について学び、「食育」をどのように表現すれば良いのか工夫し、実践を通じて学ぶことができた。同時に、下関市内におけるポスター展示発表と被災地の保育施設への「食育双六」送付によって、客観的に自分達の制作物を捉える機会を得ることができた。

報告者は、一連の学生達による双六制作・実践の様子を観察することによって、盤上遊戯「絵双六」は、領域「言葉」における「表現媒体の教材」として機能する実態を観察できた。

まず、制作において学生は「言葉」による「主題」（双六の題名）表現、「コマにおける説明表現」を工夫した。つまり「双六」を制作することは、言語表現を考察することでもあった。

また、完成した「絵双六」を実践する際、遊戯者は自分や相手が停まったコマについて質問・感想を述べる。同時に「上がり」への到着順を競うため、相互に所感を述べ、励ましの言葉を掛ける。このように実践では、「コミュニケーション促進」に対しても有効な教材であることが把握できた。

本活動の反省点としては、制作した双六に対する実践・改善の時間が少なかったことが挙げられる。宮古市内の保育所に送付する前に、実際に子ども達だけで実践して貰い、改善点のみ

つけることによって、より良い双六づくりができたと考えられる。

今後、更なる学生の資質向上を目指すと同時に、地域交流・遠隔地における被災地支援等も考慮したゼミナール活動を展開することを目標としたい。同時に「食育表現」として相応しい表現媒体・発表方法についても工夫・改善を行っていききたい。

謝辞

絵双六の展示・宮古市内保育所への送付および本稿の作成にあたり、御後援・御協力頂きました下関市（教育委員会・市民部防災安全課）、シーモール下関商業開発様、宮古市内保育所（小山田保育所・田老保育所・津軽石保育所）、学内ではありますが河野光子教授・堀尾昇平教授・稲員祥子准教授・塩田博子准教授、そして和文題名・要旨を英訳頂いた David Kalischer 氏（福岡市総合図書館映像資料課勤務）に対し、記して謝意を表します。

注（参考文献・論文）

- 1) 高杉志緒：保育学科ゼミナールにおける「食育」実践報告―「山口食育カルタ」制作を通して―，下関短期大学紀要，29号，2011年
- 2) 下関市編集・発行：「下関ぶちうま食育プラン」，2008年
- 3) 河野光子・堀尾昇平・稲員祥子・高杉志緒：第3回 作品展と工作体験「みて、つくって、楽しんで―被災地子ども達を応援しよう―」開催報告，下関短期大学紀要，30号，2012年
- 4) 築地双六館他監修：「双六」，文溪堂，東京，2004年

主要参考文献（上記文献・論文以外の書籍）

1. 「日本の食生活全集 山口」編集委員会：「日本の食生活全集 35 聞き書 山口の食事」，社団法人農山漁村文化協会，1989年